

作成日 2003年 3月 20日

改訂日 2023年 6月 23日

## 安全データシート

### 1. 化学物質等及び会社情報

製品名 : 真空ポンプオイル  
社内製品コード : Y93091, Y93092, Y93094  
会社名 : アサダ株式会社  
住所 : 愛知県名古屋市北区上飯田西町3-60  
担当部門 : 営業本部  
電話番号 : 052-911-7165  
緊急連絡電話番号 : 052-911-7165 (月曜日から金曜日の8:30~17:25)  
FAX番号 : 052-914-2062  
メールアドレス : sales@asada.co.jp  
推奨用途及び使用上の制限 : 真空ポンプ

### 2. 危険有害性の要約

#### GHS分類

物理化学的危険性 : すべて、区分外・分類できない・分類対象外のいずれかである。  
健康に対する有害性 : すべて、区分外・分類できない・分類対象外のいずれかである。  
環境に対する有害性 : すべて、区分外・分類できない・分類対象外のいずれかである。

#### GHSラベル表示

##### 絵表示



##### 注意喚起語

: 注意

##### 危険有害性情報

: 蒸気やミストを吸入した場合、胸のつかえ感とともに喉の炎症を  
起こすことがある。

飲み込むと消化器系の不快感を引き起こすことがある。

適切な洗浄を行わず、長期的または継続的に皮膚に接触させた場合

毛穴をふさぎ、にきび・毛包炎等の疾患を引き起こす可能性がある。

直接目に入った場合、若干の刺激と発赤が予想される。

##### 注意書き

: 取扱上の注意事項

- ・目に入れない、皮膚に触れない。保護具を着用して目や皮膚を保護。
- ・ミストを吸入しないこと。呼吸器具を使用する等、ミスト吸入を防ぐ。
- ・飲まないこと。飲むと下痢や嘔吐をするおそれがある。
- ・子供の手の届かないところに保管する。

##### 応急措置

- ・目に入った場合：清浄な水で15分以上洗眼し、医師の診断を受ける。
- ・飲み込んだ場合：無理に吐かせないで直ちに医師の診断を受ける。
- ・皮膚に付着した場合：水と石けんで十分に洗うこと。
- ・ミストを吸入した場合：空気の新鮮な場所へ移動し、保温して  
安静を保ち医師の診断を受ける。

## 保管

- ・ゴミ・水分の混入防止のため使用後は密栓すること。
- ・直射日光を避け、暗所に保管すること。
- ・子供の手の届かない場所に保管すること。

## 廃棄

- ・法令に従い適正に処理すること。
- ・不明な場合は購入先に相談し処理すること。

## 3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別	: 混合物
化学名又は一般名	: 石油系炭化水素
化学特性（化学式）	: 特定できない
成分及び含有量	: 水素処理ヘビーパラフィン油 >90質量%
CAS No.	: 64742-54-7
危険有害成分	: 化学物質管理促進法 非該当 労働安全衛生法（第57条の2 通知対象物） 鉱油 毒物劇物取締法 非該当

## 4. 応急処置

目に入った場合	: 直ちに清浄な水で15分以上洗う。 コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。 痛みやかゆみが残る・炎症がある場合は、医師の診断を受ける。
吸入した場合	: まずは、自身および他者がこれ以上吸引しないようにする。 患者を空気の新鮮な場所に移し、呼吸がしやすい姿勢で休息させる。 呼吸器の刺激・めまい・吐き気が生じる・意識が混濁する等の症状が出た際には、すみやかに医師の診断を受け（させ）ること。 呼吸が止まった際はすみやかに人工呼吸・心臓マッサージ・AEDで応急処置をすると共に、至急救急車を呼んで医師の診察を受けさせる。 身体を毛布などで覆い保温して安静を保ち、医師の診断を受けさせる。
皮膚に付着した場合	: 水と石けんで付着した部分を十分洗う。汚れた衣類や靴を処分する。 皮膚に痛み・かゆみ・炎症がある場合、医師の診断を受ける。
飲み込んだ場合	: 無理に吐かせないこと。すみやかに医師の診断・手当てを受ける。
急性症状及び遅発性症状の もっとも重要な兆候及び症状	: データなし

## 5. 火災時の措置

消化剤	: ドライケミカル、泡、二酸化炭素、霧水が有効である。
使ってはならない消化剤	: 棒状放水はしないこと。火災を拡大し危険な場合がある。
特有の危険有害性	: 熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。激しく加熱すると燃焼する。 燃焼により、煙、一酸化炭素、不完全燃焼生成物が発生する。 窒素酸化物や硫黄酸化物も発生するおそれがある。
消火方法	: 危険でなければ火災区域から本製品の入った容器を移動する。 容器が熱に晒されているときは、移さない。 安全に対処できるならば着火源を除去すること。 火元への燃焼源を絶つ。 消火を行う者は、標準的な保護具や自給式呼吸器を使用する。
消火を行う者の保護	: 適切な空気呼吸器、防護服（耐熱性）、保護メガネを着用する。 消火作業は呼吸保護具を着用して風上から行う。

## 6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、  
保護具及び緊急時措置
- ： すみやかに全ての着火源を取り除く。直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離、関係者以外の立ち入りを禁止する。密閉された場所に立入る前に換気する。皮膚に触れたり眼に入る可能性がある場合は保護具を着用する。ミストが発生する場合、呼吸器具等を使用してミストを吸入しないこと。
- 環境に対する注意事項
- ： 土壌の汚染、水質汚濁に繋がるので可能な限り回収する。河川・下水道などに排出されないよう注意する。環境中に放出してはならない。
- 封じ込め及び浄化の方法  
及び機材
- ： すべての発火源を速やかに取り除く。（近くで喫煙・火花・火炎の禁止）  
陸上の場合：危険がない場合、漏えいを止める。適切な吸収剤やポンプで回収する。大量に漏れた場合、その箇所に土手を作る。  
海上の場合：危険がない場合、漏えいを止める。すぐに流出を止め、他の船に連絡する。上澄みをすくいとり、適切な吸収剤を用いて処理する。水上で分散・吸収剤を使用する際は、使う前に専門家の判断を仰ぐこと。土地と水への流失は、最も起こりそうな流出状態を想定している。しかし地理的条件、風、温度、水の場合は波、方向、速度が対処方法に影響を与える。回収作業を行う前に、自治体の担当者に相談をすること。
- 二次災害の防止策
- ： 全ての発火源を速やかに取り除く（近傍での喫煙、火花や火災の禁止）  
関係箇所に通報し応援を求める。危険でなければ漏れを止める。  
水路、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

## 取扱い

## 技術的対策

- ： 指定数量以上の量を取扱う場合は、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行う。火花、炎、高温体等との接触を避けると共に、みだりに蒸気を発散させないこと。皮膚に触れたり、眼に入る可能性のある場合は保護具を着用する。静電気対策を行い、作業衣、靴等も導電性の物を用いる。危険物が残存している機械設備などを修理又は加工する場合は、安全な場所において危険物を完全に除去してから行う。室内で作業を行う場合は、十分な換気を行う。ミストが発生する場合、呼吸器具等を使用してミストを吸入しないようにする。

## 安全取扱注意事項

- ： この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。  
取扱い後はよく手を洗うこと。

## 保管

## 技術的対策

- ： 保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。  
容器は必ず密栓すること。またラベルをつけること。

## 保管条件

- ： 危険物の表示をして保管する。  
涼しく乾燥しており、換気の良い場所に保管する。  
熱や点火源、直射日光を避け保管する。  
酸化剤から離して保管する。施錠してから保管すること。

## 8. 曝露防止および保護措置

## 技術者管理

- ： 保護レベルや必要とされる管理レベルは曝される度合いによって変わる。通常の使用においては、換気がなされているかを確認する。

## 人的保護

- ： 保護具の選択は曝される状況によって変わる。（例：機器、取扱状況、濃度、換気） 通常時の保護具は、下記の保護具の項を参考。

## 管理濃度

- ： 規定なし

## 許容濃度

- ： ACGIH TLV-TWA 5mg/m<sup>3</sup>  
ACGIH TLV-STEL 10mg/m<sup>3</sup>

## 設備対策

- ： 作業場には全体換気装置、局所排気装置を設けること。この物質を貯蔵ないし取り扱う作業場には、眼の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置すること。

## 保護具

- 呼吸用保護具 : 適切な呼吸器保護具を着用すること。
- 手の保護具 : 適切な保護手袋を着用する。磨耗・損傷した保護手袋は使用しないこと。
- 眼の保護具 : 適切な目の保護具を着用する。
- 皮膚及び身体の保護具 : 適切な保護衣、保護面を使用すること。
- 衛生対策 : 本製品を扱う時に、飲食や喫煙をしないこと。取扱後はよく手を洗う。

## 9. 物理的および化学的性質

## 外観

- (物理的状态、形状、色) : 無色透明の液体
- 臭い : 特有のオイル臭
- 融点・凝固点 : データなし
- 沸点 : 347℃
- 引火点 : 216℃
- 発火点 (自己点火温度) : データなし
- 爆発限界 (可燃限界) : データなし
- 蒸気圧 : < 1kPa (20℃)
- 蒸気密度 : データなし
- 比重 : 0.867 (15.6℃)
- 溶解度 : 水に不溶
- n-オクタノール/水分配係数 : データなし
- その他のデータ
  - 動粘度 :  $\sim 43\text{mm}^2/\text{s}$  (40℃) 、  $\sim 6.5\text{mm}^2/\text{s}$  (100℃)
  - 流動点 : -12℃
  - pH値 : 7

## 10. 安定性および反応性

- 化学的安定性 : 常温で安定と考えられる。
- 危険有害反応可能性 : データなし
- 避けるべき条件 : 点火可能性のある物質、混合接触危険物質との接触、高温環境下での保管および使用を避ける。
- 混合接触危険物質 : データなし
- 有害な分解生成物 : 常温で分解なし。燃焼の際は、一酸化炭素が生成される可能性がある。

## 11. 有害性情報

- 急性毒性 (経口) : 分類できない  
全成分が明らかではなく、明確な急性毒性値を割り当てる事ができない。構造的に類似する物質の試験データとしては ラットLD<sub>50</sub> > 5000 mg/kg のデータがある。
- 急性毒性 (経皮) : 分類できない  
全成分が明らかではなく、明確な急性毒性値を割り当てる事ができない。構造的に類似する物質の試験データとしては ウサギLD<sub>50</sub> > 5000 mg/kg のデータがある。
- 急性毒性 (吸入: ガス) : 分類対象外 本製品は液体である。
- 急性毒性 (吸入: 蒸気) : 分類できない データなし
- 急性毒性 (吸入: ミスト) : 分類できない  
全成分が明らかではなく、明確な急性毒性値を割り当てる事ができない。構造的に類似する物質の試験データとしては ラットLD<sub>50</sub> > 5 mg/L のデータがある。
- 皮膚腐食性及び皮膚刺激性 : 分類できない  
構造的に類似する物質の試験データとしては、大気温度下のウサギで皮膚に対してごくわずかな炎症が出ている。

目に対する重篤な損傷性 又は眼刺激性	: 分類できない 構造的に類似する物質の試験データとしては、ウサギで短期的にわずかな目への不快感がある。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	: 分類できない データなし
生殖細胞変異原性	: 分類できない データなし
発がん性	: 分類できない データなし
生殖毒性	: 分類できない データなし
特定標的臓器毒性（単回曝露）	: 分類できない データなし
特定標的臓器毒性（反復曝露）	: 分類できない データなし
吸引性呼吸器有害性	: 分類できない データなし

## 1.2. 環境影響情報

### 生態毒性

水生環境有害性（急性）	: 分類できない 実験データによると急性有毒値は1000mg/lとされているが、対象生物・経過時間等の詳細が不明であり分類できないとした。
水生環境有害性（長期間）	: 分類できない データなし
オゾン層への有害性	: 分類できない データなし
移動性	: 空気中へ揮発する。低蒸気圧であるため重大な結果をもたらすことはないと考えられるが、ミストの吸入は人体に悪影響を及ぼす恐れがある。ミストを吸入しないよう防護措置をとること。水中ではオイルは浮遊し、表面に広がると考えられる。土壌や滞留物においては低流動性である。
残留性/分解性	: オイル合成物であり、土壌や滞留物においては低生分解性と考えられる。
生態蓄積性	: データなし
他の有害情報	: データなし

## 1.3. 廃棄上の注意

残余廃棄物	: 廃棄の前に可能な限り無害化・安定化・中和等の処理を行い、危険有害性のレベルを低い状態にする。内容物/容器は国際・国・都道府県・市町村の規則に従って廃棄すること。事業者は産業廃棄物を自ら処理するか、又は都道府県知事の認可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。投棄禁止。埋立処分を行う場合にはあらかじめ焼却設備を用いて焼却し、その燃えがらについては、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令」に定められた基準以下であることを確認しなければならない。焼却する場合、密閉された空間で制御可能なバーナーにより燃料を用いて焼却する。あるいは管理された焼却炉にて高温で焼却し、一酸化炭素等の好ましくない燃焼生成物の発生を防ぐ。
汚染容器及び包装	: 容器は関連法規並びに地方自治体の基準に従い、適切に処理すること。空容器は残留物を含み危険である。廃棄する場合、内容物を完全に除去した後処分する。容器を再利用する場合、適切な指導なく再充填や容器の洗浄をしないこと。

## 1.4. 輸送上の注意

IMDG分類 国連分類	: データなし
国際規制	
海上規制情報	: IMDGコード データなし
航空規制情報	: IATA規則 データなし
UN No.	: 国連番号 該当なし
国内規制	: 下記の輸送に関する国内法規制に該当するので、各法の規定に従った容器、積載方法により輸送する。
陸上輸送情報	: 消防法 危険物第4類 第4石油類 危険等級Ⅲ
海上輸送情報	: 船舶安全法 非危険物（個別運送とバラ積み運送に於いて）
航空輸送情報	: 航空法 非危険物
輸送の特定の安全対策 及び条件	: 容器には下記の内容を表示すること。 一、危険物の品名・危険等級・化学名

二、危険物の数量

三、収納する危険物に応じた注意事項 本製品は「火気厳禁」

容器が著しく摩擦や動揺を起こさないように運搬する。

食品や飼料と一緒に輸送してはならない。漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。重量物を上積みしない。

その他 : その他関係法令の定めるところに従う。

#### 1 5. 適用法令

消防法 : 危険物第4類第4石油類 危険等級Ⅲ  
労働安全衛生法 : 通知対象物質（鉱油）  
海洋汚染防止法 : 規制対象物質（油分）  
船員労働安全衛生規則 : 該当（油類）  
毒物及び劇物取締法（PDSCL） : 非該当  
化学物質管理促進法（PRTR法） : 非該当  
下水道法 : 鉱油類排出規制  
廃棄物処理法 : 産業廃棄物規制  
水質汚濁防止法 : 油分排出規制

#### 1 6. その他の情報

参考文献 : 経済産業省「事業者向けGHS分類ガイダンス」  
日本化学工業協会「安全データシート(SDS)作成についての手引き」  
厚生労働省「職場のあんぜんサイト GHS対応モデルラベル・  
モデルSDS情報 水素処理ヘビーパラフィン油」  
改訂日時および改訂情報 : 改訂05 2016年3月31日  
GHS分類における情報の記載・追加  
並びに大幅な改訂  
本SDSで使用される用語 : ACGIH - 米国産業衛生専門家会議 IARC - 国際がん研究機関  
IATA規則 - 国際航空運送協会の危険物規則  
IMDGコード - 国際海上危険物規則  
IUCLID - 国際統一化学情報データベース OECD - 経済協力開発機構  
SDS - 安全データシート STEL - 短時間曝露限界  
TLV - 許容濃度 TWA - 時間加重平均

#### ※注意

製品安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取り扱う事業者提供されるものです。取り扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取り扱いなどの実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。